

## ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	猪苗代湖 いなわしろこ	未指定	猪苗代湖の水の恩恵を受けるべく、安積開拓・安積疏水開さく事業が行われた。標高が 514m と高い位置にあるため、自然落差を利用し、農業用水や生活用水が供給された。また、水力発電の発展にも貢献し、近代化への礎を築いた。	郡山市 猪苗代町
2	富岡の唐傘行灯花火 とみおか からかさあんどんはなび	市無形	明治初期から始まった花火で、雨乞い、豊作、家内安全を祈願するもの。閉じられた傘が開き、光が雨のように降り注ぐという全国でも珍しい花火である。	郡山市
3	安積開拓発祥の地 あきかいたくはつしょうのち	市史跡	福島県開拓掛が設置された施設「開成館」や開拓の入植者の住宅があり、近代郡山の発展の礎となった安積開拓・安積疏水開さく事業の中心地。	郡山市
4	安積開拓官舎 一旧立岩一郎邸一	市重文 (建造物)	安積開拓時に設置された「福島県開拓掛」の職員用官舎。明治天皇の御巡幸の際には、政府高官の宿泊所にもあてられた。	郡山市
5	開成館 かいせいかん	県重文 (建造物) (近代化産業 遺産)	安積開拓時の郡役所で、ここに福島県開拓掛が設置された。地元の大工が錦絵や建物の見聞を通じて得た情報で、見よう見まねで建設された「擬洋風建築」。後に県立農学校にも使用され、明治天皇の 2 回にわたった東北御巡幸の際には、行在所 (宿泊所) や休憩所にもなった。	郡山市
6	金透記念館 きんとうきねんかん	未指定	開成館と同じ「擬洋風建築」で建設された小学校。明治 9 年 (1876 年) の明治天皇東北御巡幸の際には、休憩所として使用された。随行した木戸孝允が「金透学校」と命名し、木戸の日記に	郡山市

			は、開成館や西洋農法が導入された開拓地とともに、驚きをもってその様子が記されている。現在の建物は、復元されたもの。	
7	五十鈴湖 いすずみこ	未指定	開成山地域の開拓が行われた際に、灌漑用の池として造成された。伊勢神宮の御分霊を受けた開成山大神宮の前にある池であったため、伊勢神宮の前を流れる「五十鈴川」にちなんで命名されたという。	郡山市
8	大久保神社	未指定	安積疏水の開通に尽力した大久保利通を称えて建立された神社。神社となっているが、実際には鳥居や社殿はなく、顕彰碑が存在している。	郡山市
9	久留米水天宮 くろめすいでんぐう	未指定	久留米藩からの入植者のために、故郷の水天宮の御分霊を奉遷した神社。建築費寄附名簿には、三条実美、伊藤博文、大隈重信、松方正義、岩倉具視など、当時の政府高官の名が並んでいる。	郡山市
10	水天宮	未指定	水天宮の御分霊を奉遷したもう1つの神社で、喜久田町に存在している。久留米の開墾地は南北に分かれ、この水天宮は北に位置している。当時は子ども遊び場や、疏水の水盤屯所に使用されており、開拓者の憩いの場所になっていた。	郡山市
11	金刀比羅神社 ことひら	未指定	久留米藩からの入植者が祀った神社で、当時久留米から長い船旅を経て、安積開拓の地に到着したことから、船の神を祀っているとされている。	郡山市
12	宇倍神社 うべ	未指定	鳥取藩からの入植者のために、故郷の宇倍神社の御分霊を奉遷した神社。当時氏子の資格要件が厳しく、移住士族とその分家だけが氏子となり、一般入植者や小作人たちは氏子になれなかったといわれている。	郡山市

13	安積開拓入植者住宅 —旧坪内家—	未指定	安積開拓のため、鳥取藩の入植者が結成した「鳥取開墾社」の副頭取の住宅。明治政府が入植者の住宅用補助金を交付し建築された5つのランクの住宅の中でも最上級の設計による建物。	郡山市
14	豊受神社	未指定	土佐藩の入植者のうち、西原に入植した者が祀った神社。はじめは伊勢神宮の遥拝所を設けていた。ここに移住した人達のほとんどが神葬祭で仏葬はあまりないといわれており、付近の地域には見られない習慣がある。	郡山市
15	八菅神社	未指定	土佐藩からの入植者が崇めた菅原道真と、地元の農家が祀っていた八幡太郎を合祀し、八幡と菅原の1字ずつってできたといわれる神社。異郷に移って生活の喜びや娯楽に乏しかった入植者たちにとっては、神社の祭礼は唯一の楽しみとなっていた。	郡山市
16	三柱神社	未指定	主に棚倉藩からの入植者が建立した神社で、「お互いの心を統一し、団結を強固にする」ために、開墾にあたり神の御加護を祈ったものであるとされる。	郡山市
17	三嶋神社	未指定	松山藩からの入植者のために、故郷の三嶋神社の御分霊を奉遷した神社。移住者の大半が小作人となったため、境内も狭く社殿もなかったといわれる。	郡山市
18	安積開拓入植者住宅 —旧小山家—	市重文 (建造物)	安積開拓のため、松山藩の入植者が結成した「愛媛松山開墾」の18戸の中で唯一現存する住宅として復元・保存されている。当時の松山の一般的な民家は、「四間×六間(しろくのま)」、囲炉裏がなく、炊事場も屋外だったといわれ、それが色濃く残っている。	郡山市
19	開成山大神宮	未指定	安積開拓に従事した人々の心の拠り所として設置された神社。伊勢神宮からの御分霊を祀っており、「東北のお伊勢さま」と呼ばれている。	郡山市

20	太刀 勝光 たち かつみつ	市重文 (工芸品)	伊勢神宮からの御分霊を受けた際に、御神宝として贈られた太刀。備前国長船に住んでいた、室町時代の刀匠勝光の作である。	郡山市
21	槍 銘 国綱 やり めい くにつな	市重文 (工芸品)	太刀 勝光とともに、伊勢神宮からの御分霊を受けた際に、御神宝として贈られた槍。安土桃山時代の作といわれている。	郡山市
22	十六橋水門 じゅうろっくきょうすいもん	未指定 (近代化産業遺産)	安積原野へ水を流すために、猪苗代湖の水位を調整する水門。安積疏水工事で一番初めに工事が始まった。当時は16の石造のアーチでできており、日本では長大な水門であった。安積開拓・安積疏水開さく事業のシンボリックな建造物で、大正期には日本の工業化を進めるべく東京へ送電を目的として建設された猪苗代第一発電所に併せて、大規模な改修が行われた。弘法大師が16の塚を築いて通行できるようにして、村人の不便を救ったとの逸話もある。	猪苗代町
23	トランシット	未指定	安積疏水工事の測量で使用されたフランス製の測量機器。当時は約664円(現在の約2,600万円)という大変高価なもので、水平角と鉛直角を精密に測定した。西を示すコンパスの針が「W」ではなく、「O」となっているのが昔ならではの珍しい特徴。	郡山市
24	レベル	未指定	安積疏水工事の測量で使用されたイギリス製の測量機器。高低差を精密に測量した。	郡山市
25	算額 (田村神社) さんがく (たむらじんじゃ)	市有形	日本古来の和算は、西洋数学の採用により廃止されてしまったが、郡山の和算家は、安積開拓や安積疏水の土地測量・水量計算に大活躍したといわれている。和算の水準と研究者の分布を知ることができる学術上も貴重な文化財である。	郡山市
26	算額 (稲荷神社) さんがく (いなはじんじゃ)			

27	安積疏水神社 あさかそすいじんじや	未指定	安積疏水の守護神とされ、当時の工事作業員が、現地に向かう際に必ず立ち寄り、その日の安全を祈ったとされる。	郡山市
28	麓山公園 はやまこうえん	未指定	明治 15 年（1882 年）に安積疏水の通水を盛大に祝った公園。当時、園内には数百ものちょうちんが掲げられ、山車を備えた歌舞伎の催しや、花火の打上げなどにより、数万人の人が集まり未曾有の賑わいをみせたとされる。	郡山市
29	安積疏水麓山の飛瀑 あさかそすいはやまひびく	国登録	明治 15 年（1882 年）に郡山の開成社等の有志が安積疏水の通水を記念して麓山公園の一角に築いた滝。安積疏水事業の記念碑的建造物で、当時の安積疏水の最終地点の一つ。当時右大臣だった岩倉具視が『農業用の施設を鑑賞用に使うとは何事か』とこの滝を見て激怒したが、実は勘違いで製糸業の動力源として利用するためのものだったという逸話もある。	郡山市
30	沼上発電所 ぬまがみ	未指定 (近代化産業遺産)	明治 32 年（1899 年）に、猪苗代湖と安積疏水の落差を利用して運転を開始した水力発電所。建設には「電気化学工業の父」と称された野口 遵 <sup>したかう</sup> が技師長として携わった。日本初の高圧電力の長距離送電により、郡山市の紡績や繊維産業の発展に大きく貢献した。	郡山市
31	竹之内発電所 たけのうちに	未指定 (近代化産業遺産)	沼上発電所と同様、猪苗代湖と安積疏水の落差を利用して造られた水力発電所。人口増加による家庭への電力供給を増やすため、大正 8 年（1919 年）に運転を開始した。	郡山市
32	丸守発電所 まるもり	未指定 (近代化産業遺産)	沼上、竹之内発電所と同様に造られた水力発電所。大正 10 年（1921 年）に運転を開始し、竹之内発電所と同様に人口増加による家庭への電力供給を増やすことを目的とした。	郡山市
33	旧福島県尋常中学校本館	国重文 (建造物)	明治 22 年（1889 年）に福島県尋常中	郡山市

		(近代化産業遺産)	学校として完成。当時桑野村は開拓事業により急速に発展しており、また、農民による土地の寄附や無償労力奉仕の申し出なども後押しし、この地に建てられたと言われている。当時の県下では最も進んだ洋風建築であり、創建された場所に当時の面影を残したまま現存している日本でも貴重な学校建築物である。	
34	猪苗代第一発電所 いなわしろ	未指定	大正 3 年 (1914 年) に運用開始となった水力発電所で、初の 115kV 送電が行われたことにより、当時の日本の中心を支えていた。運用開始時の出力 37,500kW は、当時東洋一の規模を誇っていた。建物は東京駅や日本銀行本店などを手掛けた辰野金吾が設計している。	会津若松市 【所有者】 東京電力株式会社
35	猪苗代第二発電所 いなわしろ	未指定	大正 7 年 (1918 年) に運用開始となった水力発電所で、猪苗代第一発電所と同様、ここからの送電によって、当時の日本の中心を支えていた。赤レンガの外壁が特徴的で、建物は「猪苗代第一発電所」と同様に辰野金吾が監修している。	会津若松市 【所有者】 東京電力株式会社
36	郡山市公会堂 こおりやましこうかいどう	国登録	大正 13 年 (1924) 市制施行を記念し建造された。国会議事堂を設計した矢橋賢吉が監修を行い、オランダ・ハーグの平和宮などを参考に設計されたと伝わる。ネオ・ルネサンス様式を基調とするモダンな外観には、開拓の意気込みが壮麗に表現され、「進取の気質」を感じ取れる建造物。郡山の飛躍的発展の象徴でもある。	郡山市
37	開成山の桜 かいせいざん	未指定	開拓用の池の堤を強化するために植樹され、開成社の社則に、花木の植樹を定めていたことが今へとつながっている。今でも約 1,300 本の桜が咲き乱れる県内でも有数の桜の名所。元国	郡山市

			指定の名勝及び天然記念物でもあった。	
38	開成山公園 <small>かいせいさんこうえん</small>	未指定	開成社が開拓用に造った池があった公園。開成社の社則に定めた花木の植樹が生んだ桜の名所を有しており、郡山のシンボリック場所。	郡山市

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。